

ひろがる豊島区の自然再生の

わ

昔からその土地に生息する動植物が生きていけるような自然を守ることの大切さを、いま、改めて考えてみましょう。

地 地球上の生きものは、繋がりが合い、バランスを保って生きています。昆虫が絶滅すると、昆虫を餌とする野鳥が生きていけなくなり、それを餌にしていた猛禽類もいなくなります。昆虫の死骸や野鳥の糞を栄養にしていた植物も無くなるかもしれません。樹木の減少や森林の衰退が進み、地球上のCO₂も増加してしまいます。こうしたつながり合いは、豊島区のようなまちのなかにもあります。ちょっとした水辺や緑の空間は、生きものを想像以上に生長・繁殖させます。今回は、自然再生の活動が、人と人をつなげたり、子どもの感性を育てている区内の事例をご紹介します。

※フクロウ・タカなど



人と人をつなげる

南長崎はらっぱ公園内ビオトープ

南 長崎はらっぱ公園（平成22年7月開園）は、「南長崎4・5・6丁目防災まちづくりの会」が中心となり、検討会による住民参加のワークショップ方式で計画づくりを進めた公園です。

ワークショップの中で「公園完成後も地域で公園を育てたい」との声があったことから、同年、「はらっぱ公園を育てる会」（以下・公園を育てる会）を設立。地域の方と話し合いを重ねた結果、ビオトープをつくることになりました。まずは、豊島区内外のビオト

ープを視察。その後、「できるだけ自然のままの手づくり池にしよう」をコンセプトにビオトープづくりが始まりました。設計段階から土台作り、石の敷き詰め、水草の植付けまでの実際の作業を住民主体で行い、平成23年4月にオープンしました。

現在は、公園を育てる会のメンバーが中心となり、公園の清掃活動やビオトープの手入れをしています。ビオトープづくりを通し、自然の再生だけでなく、住民同士の交流のきっかけとなり、コミュニティの形成につながっています。

※南長崎はらっぱ公園 豊島区南長崎 6-1-20



地域のみなさんで手作りしました。



写真：公益財団法人としま未来文化財団 タウンデザインセクション提供

子どもたちが主体となって

長崎小学校・長崎池



岩間先生（写真下列中央）と長崎小学校5年生のみなさん

長 崎小学校の5年生が平成24年度に取り組んだ環境教育授業「豊島区だからできる環境教育、地域の緑を育てよう！～5年生は緑のメッセンジャー～」(講師：岩間美代子先生/NPO 法人 ネイチャーセンターリセン)では、以前からある自然園と、その中にある鑑賞池を学校ビオトープ「長崎池」として再生しました。

再生にあたり、地域在来の植物を郷土資料館の資料で検証し、学校近隣の方々にも聞き込み調査をしました。地域に生息していた植物を植えることで、区の歴史をひもときながら環境の変化を学べるように工夫されています。

池の金魚をさらい、周りの土を掘りおこし、植物を植えるなど、作業はすべて子どもたちの手で。経験したことのない問題は、自分たちで考え、解決していくことで、子どもたちも成長していきました。

5年生が代々「緑のメッセンジャー」



NPO法人ネイチャーセンターリセン提供

として、自然園・長崎池の管理や生態系の維持などを引き継いでいきます。下級生にも説明をすることで、自然への興味が広がり、日々知識を深めています。

「人間も自然の一部だと気が付くことが大切なんです」と力強く語ってくださった岩間先生。当番の女の子は「はじめは管理するのは汚くて嫌だったけど、みんなと活動しているのがだんだん楽しくなってきた」と感想を話してくれました。校長先生、副校長先生は「この活動をきっかけに、将来自然に関わるような仕事に就く子が出てくれるとうれしい」と期待を膨らませています。

生きものの目線で

清和小学校・ビオトープ池

こ のビオトープは、小学校の校庭芝生化と共に、平成21年に完成しました。卒業生の保護者でプールのヤゴ救出リーダーも務める町田さん夫妻が、提案から計画まで関わりました。

学校では生態系の学習や生きもの探しの授業にこのビオトープ池を活用し

ており、この地域本来の自然を少しでも再生できるように町田さん夫妻が中心となって管理をしています。授業以外では、子どもたちには掲示板を通じてビオトープ池で見つかった生きもの

の情報を発信しています。町田さんは「自然を守るだけでなく、自然を見る目を育てていくことが必要。今までの学校の池は、人間の目から見てきれいに整備されたものが多い。これからは『生きものの目線』で豊島区本来の自然を子どもたちに伝えていきたい」と話してくれました。



ビオトープ池で見つかった生きものや植物の掲示板です。



町田さん提供



池の中やまわりにも高低差をつけた環境を作りました。

町田さん提供

誰でも作れる地域の自然

今 回、豊島区本来の自然の再生を目指す取り組みとして、小さな水辺を中心としたビオトープを紹介しました。ひとつひとつは小さくても、区内に点在する自然がつながり、連続することで、徐々に区内に地域本来の生きものが行き来できるようになります。

豊島区でも、区内にある希少な生態系を守り、次世代につなげ育てていくため、緑地の保全や、生態系に配慮した公園づくりを行っています。1本の木を植えるだけでも、多くの虫や鳥が生息できます。ご家庭や事業所でも玄関先やベランダを活用して、小さな自然を増やしてみませんか。